



講談社文庫
定価：540円（税込）



ガンとたたかった十年間

死を見つめる心

岸本 英夫 著



私は本来、読書はあまり好きではなく、読書家の皆さんに本をお勧めできるところ、本を読みでいるわけではありませんが、本は私たちにいろいろな人生の教訓を示唆してくれます。そんな私がぜひともお勧めしたいのが、この一冊です。

私たちが人間として生まれてきた以上、遅かれ早かれ必ず死を迎えます。しかし、日常生活においては、その事を忘れて日々、忙しく時間に追われながら生活をしてい

ましながら生活をしていくところが、ある日突然、目の前に「死」が直面すると、自分の人生を振り返りながら、残りの人生について考え、残された者へ自分の想いを書き残す事があります。著者は著名な宗教家で、突然「悪性黒色腫」の診断を受け、自分が死と隣り合わせにいる事を自覚します。そして10年もの間、この病気と闘っていきわけですが、この本ではその間の著者の死に対する心持が非常に繊細に、かつ丁寧に書かれています。

死に対する考え方はさまざまですが、著者は著名な宗教家であるため、その考え方は実に緻密で、読者にさまざまな示唆を与えてくれます。

残念ながら私のこの駄文では、この本の良さは十分に伝わりません。まずはぜひ、ご一読ください。

（みやき町 今村 洋二）